

**DAA による HCV 駆除後肝発癌の実態と脂肪性肝疾患との関わり、
および肝癌根治後 HCV-SVR 症例における肝癌再発・再々発危険因子の検討**

研究分担者 古賀 浩徳 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門・教授

研究要旨

九州地区においては、HCV 関連肝癌の新規患者数は減少しているが、非 B 非 C 型肝癌患者が依然として増え続けている状況が明らかになった。また DAA は、HCV 関連 HCC の再発に加え、再々発をも持続的に抑制することが示唆された。

A. 研究目的

1) 九州全体における新規肝癌発生数の動向を追跡するとともに、近年増加し、かつ SVR 後に増強する臓器内脂質異常（脂肪性肝疾患・線維化）と肝発癌との関わりを検討する。2) 肝癌を根治した症例における再発肝癌・再々発肝癌への DAA の抑止力を検討する。

B. 研究方法

1) 九州肝癌研究会の参加施設に調査票を統計解析し、25 年間の追跡調査結果を論文化した。
2) 当院における HCC 根治術後の症例を後方視的に解析 DAA 治療の HCC 再々発への抑制効果を検討した。

（倫理面への配慮）

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（久留米大学）の倫理委員会で承認されている。

C. 研究結果

1) 2009 年をピークに新規肝癌患者数は徐々に減少しているが、2021 年は若干増加した。非 B 非 C 型肝癌患者数が増加していることが一因かもしれない。今後も注目すべき点である（Sci Rep 2022;12:1517）。2) HCC 根治術後に DAA で HCV を駆除した症例群と駆除しなかった症例群とを、

propensity score matching、多変量解析を用いて比較した。その結果、DAA 治療による HCC 再々発に対する持続的抑制効果もあることがわかり、担癌患者においても HCV 排除の重要性が示唆された（Cancers 2022;14:2295）。

D. 考察

HCV elimination の成果が、HCV 関連肝癌の発生減少として現れていると考えられた。

DAA による HCV 駆除には HCC 再発のみならず再々発を低減させる持続的な肝発癌抑制効果あると考えられ、引き続き HCV elimination を推し進めていくことが国民全体の医療として重要であると考えられた。

E. 結論

肝癌新規患者数の動向を注視し、HCV elimination の効果を評価していくことは重要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Nakano M, Yatsushashi H, Bekki S, Takami Y, Tanaka Y, Yoshimaru Y, Honda K, Komorizono Y, Harada M, Shibata M, Sakisaka S, Shakado S, Nagata K, Yoshizumi T, Itoh S, Sohda T, Oeda S, Nakao K, Sasaki R, Yamashita T, Ido A, Mawatari S, Nakamuta M, Aratake Y, Matsumoto S, Maeshiro T, Goto T, Torimura T. Trends in hepatocellular carcinoma incident cases in Japan between 1996 and 2019. Sci Rep.2022 Jan 27;12(1):1517.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし